

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	第2回津地区地域審議会
2. 開催日時	平成23年8月24日（水曜日） 午後13時30分から午後15時30分まで
3. 開催場所	津市役所4階 庁議室
4. 出席した者の氏名	（津地区地域審議会委員） 岡本祐次 今井和美 澤田かず子 須山美智子 橋本陽子 東尚子 村田佳美 森田泰紹 （事務局） 市長 前葉泰幸 地域振興担当参事 松下哲也 地域振興室長 北川良治 地域振興担当主事 吉田真実
5. 内容	1 平成22年度地域かがやきプログラム事業評価の承認について 2 津市総合計画審議会委員の選任について 3 その他
6. 公開又は非公開	公開
7. 傍聴者の数	1人
8. 担当	津市政策財務部地域振興室地域振興担当 電話番号 059-229-3277 E-mail 229-3277@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

北川地域振興 室長	お待たせいたしました。 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。 それではただ今から、平成23年度第2回津地区地域審議会を開催させていただきます。 当会議の進行につきましては、津市地域審議会の設置に関する協議の規定に基づき会長にお願いいたします。また、会議は公開で行うものとなっており、会議の議事録はホームページ上で公開されますのでご了承ください。 なお、本日の出席委員は、委員15人中、8人となっておりますので、津市地域審議会の設置に関する協議第9条第4項により、2分の1以上の出席がありますことから、会議は成立いたしておりますことと、併せて、
--------------	--

岡本会長	本日の傍聴者は、1人でございます。 では、会長、よろしくお願いいたします。 それでは、第2回津地区地域審議会を開催しましたところ、お忙しい中お集まりいただきました。15人中8人ということで、会議は成立しています。津市地域審議会の設置に関する協議第9条第4項により、私が進行させていただきます。いろいろご発言をいただきますが、とにかくご忌憚のない意見を言ってもらいたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 今日は市長さんにおいでいただいておりますので、ここで市長さんに一言ご挨拶いただいて始めたいと思います。それでは、市長さんよろしくお願いいたします。
前葉市長	みなさんこんにちは。津市長の前葉泰幸でございます。地域審議会は初めて参加させていただきます。参加というか傍聴のような形でお話を伺おうということでございます。なぜこういうことになったかと申しますと、地域審議会というものは、法律に基づいて設置されているものでございまして、合併後の津市にとっては非常に重要なものでございます。したがって、機会があれば一度地域審議会にお邪魔して、どのようなご議論をいただいているのか、その場でお伺いしたいとお聞きしたいと事務局に伝えておりましたところ、今日津地区の地域審議会が最初にちょうど私の日程とも合いまして、出席をさせていただけることになりました。大変ありがたいご討議をいただいております。もちろん議事録はこれまでもずっと、私のところへ報告があがって参りますので、全部読ませていただいておりますので、これまでも真摯なご意見をいただいていることは、津地区、各地区とも非常にまじめなご議論をいただいていることは承知をいたしているわけでございますけれど、今後の私にとっての課題としては、この地域審議会を出していただける議論をどうやって市政に実現していくかというところでございますので、それを頭に巡らせながら議事録を読ませていただいているわけでございます。 そういった中で、ちょうどまい具合にといっちはなんですが、平成25年度から総合計画後期基本計画が始まりますので、そこで、これは前回も同様であったと思いますが、各地域審議会から1人、総合計画審議会の委員になっていただくこととなっています。その中でのご意見は、地域審議会におけるご議論を踏まえてご意見をいただくことになろうかと思っておりますので、まず受け止め先としては総合計画があるということでございます。ただ、総合計画というのはかなり広い話になるとともに、各地域審

議会の特に津地区というのは旧津市ですので、旧津市ならではの課題もあります。それは、この審議会でご議論いただいているものと思いますが、これをどうやって実現していくかという、それぞれまた総合計画以外のところでひとつひとつ形にしていくやり方もあろうかと思いますが、そういうことも含めて私としては検討させていただきたいと思っています。

「対話と連携」ということを選挙戦で掲げましたので、その後も市政懇談会というのを開催したり、各分野の方々とご議論させていただいたりということをやらせていただいております。ただ、それをやりっぱなしにしてもだめなので、ホームページで「市長懇談記」というコラムを作りまして、そこで、どういう方々とどういう話をしたのかを公開させていただいております。その中で、私としては1時間なり1時間半なり2時間なりの会議に出させていただくと、これは、というものが必ず1つや2つはあります。私もその場で発言をしています。それは、発言をしないと、私がちょっと思っただけで持ち帰ってしまいますと、なかなかそのままになってしまう可能性もありますから、発言をしています。この間も一志に出掛けまして、一志のとことめの里のところで花を、コスモスとか今は向日葵を咲かせていただいていることがあって、それをもっとPRしなきゃという話になりましたので、実はホームページに「一志地域」とか「久居地域」というバーがありまして、そこをクリックすると一志だけの情報が得られるところに入っていけます。そここのところに、今向日葵がこんなに咲いていますというような写真を載せたらどうかという提案をその場の会で思いついてしました。それは8月12日の会議でしたが、もう18日頃には実際そのことが出ていまして、昨日付でも本当にきれいな向日葵が咲いている写真が見られるようになっていました。見られるようにしたよということを、一志総合支所の職員があげてくるのではなくて、私が会議に出ていた参加者の方とちょうど夏まつりでお目にかかった時に、市長がこの間言っていた話、あれもう一志総合支所にやってもらったから、というふうにおっしゃいました。そのように、スピード感ある対応をすることもできていますし、それは私にとっては市役所職員が、市長が言ったからやったというやっつけ仕事と違って、自然な形でできて、それがまたみなさんのような市役所外の人からフィードバックを受けているという非常にいい循環ができつつあるのではないかと思いますので、ぜひ、地域審議会におけるご議論もなんらかの形でうまく市政の現場、市の施策の現実につなげていきたいという思いを持っています。そんなことも含めて、ご議論が議論で終わらないよう、ぜひ、市長実際にこうやってみたらどうやとか、こんなことからみんなを始めよう、というようなことをいただいて、どんど

岡本会長	ん活発にそれを形にしていくということをやって参りたいと思っていますので、ぜひともこの地域審議会のみなさまの今後のご議論、ますますの活発なご議論を期待申し上げます。今日はそういうことで、聞かせていただきまして、何かありましたら、会長からふっていただければと思いますが、そうでなければどうぞ普段の姿でやっていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。 ありがとうございます。対話と連携が進んでいるようでございますので、ここでも一生懸命発言をしてもらって、これにのっていけるようにしたいと思います。 それでは会議に入っていきたいと思います。まず最初に会議録に署名していただく方を指名させていただきます。今日は今井さんと澤田さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。 では、お手元に事項書があると思いますが、事項 1 平成 22 年度地域かがやきプログラム事業評価の承認について、ということであります。承認についてとなっていますが、これは検討委員会を設けまして、皆様から集められたご意見と検討委員会の意見を入れて集約しましたので、我々がまとめたものを補足して承認いただけるとありがたいなということでございます。 それでは、事項 1 について事務局から説明をお願いします。
北川室長	それでは、先ほど会長からお話がありました平成 22 年度地域かがやきプログラム事業評価の承認についてということで、8 月 11 日に検討委員会が開催され、委員の皆さんの評価、ご意見をお手元にお配りしております資料 1－①、②、③、④にまとめていただきました。 それでは、資料 1－①をご覧ください。 つ・ローカルインフォメーション事業では、市民特派員の書き込みが 1 日 30 件以上あると新着情報としてすぐに消えてしまい、書き込みに対してやる気を失う恐れがあることから、新着情報のシステム修正と、市民特派員に対する技術面等の指導と共に、やる気が継続しやすい環境づくりを行い、あわせて、特派員の育成やブログに対する興味を持ってもらうための講座を開催する。ということが 22 年度の取組目標でありました。 このことについて、検討委員会でおまとめいただきました案というのは、ここにも書かせていただいておりますが、市民特派員数やアクセス数は順調に増加し、市民の関心も高まっていると考えられますが、「津 e ネットショップ事業」との連携が進んでおらず、今後はその課題に向けた取

	り組みが必要です。 また、平成 23 年度からは民間主体で運営していくこととなるので、民間主体のメリットを生かして新たな取り組みを進めるとともに、今後も継続して実施していく中で、市民特派員の質的向上、発信情報の充実を図り、課題克服のために引き続き行政も支援していく必要があります。評価としては、C 継続して実施 の評価（案）ということでおまとめいただきました。 つづいて資料 1－②を説明させていただきます。 津 e ネットショップ事業では、地域で生まれた商品のブランドを高めるため、安定した販売量を確保できる「地域ブランド」を発掘し、これを販売するインターネットサイト「津 e ネットショップ」を開設し、「津のこと」とリンクすることにより、消費者の目線でのネットショップの構築を進める。ということが 22 年度の取組目標でありました。 検討委員会では、「津モール」が開設されましたが、商品は数少ない状況であり、取引の安全性など運用面でも不安を感じるところがあります。今後は、PR に努めるとともに、何を地域ブランドとして推進していくのか、生産者だけではなく、市民の目も反映されるよう検討し、安定した販売量で安全な取引を確保できるよう努める必要があります。また、デザインを工夫したり、希少性のある商品開発・発掘にも力を入れていく必要があります。評価としては、C 継続して実施の評価（案）であります。
岡本会長	ちょっとすみません、目標達成のために重点的に取り組む事業というのを言ってもらって、それからこちらへ入っていくのですが、以前配ってもらった評価シートのところを書いてありますので、もしお持ちでしたらそれをご覧ください。
北川地域振興室長	今回お配りした 2 枚目につけさせていただいております。
岡本会長	そうですね。失礼いたしました。それでは続けてください。
北川地域振興室長	それでは、資料 1－③をご覧ください。 あのつアカデミー事業では、大学等の高等教育機関と連携し、これまでの公民館講座より専門性のあるさまざまな講座を開設し、指導的な役割を担う人材に育成を目標としています。 検討委員会では、家庭教育に関する講座では、受講者が講座で学んだこ

	とを活かして、ボランティア活動をされているなど、人材育成に向けた取り組みの成果に一定の評価はできますが、その他の講座については、開催回数も少なく、地域や学校で指導的な役割を担う人材が育成されているのか疑問を感じます。大学等との連携をさらに密にして、専門性の向上に努めるとともに、日常生活に役立つ知識が得られる講座を開設するなど、開催と書いてありますが、開設です。より多くの市民に興味を持ってもらい、地域で活かせる人材を育成できるよう検討する必要があります。評価としては、C 継続して実施 の評価（案）であります。 次に、資料 1－④をご覧ください。 一身田寺内町まつり事業は、平成 22 年度に地域振興活動事業から地域かがやきプログラム事業に移行した事業で、貴重な歴史的資源が多く残る一身田寺内町で、「一身田寺内町まつり」を通じてその魅力を紹介・案内し、市内外を問わず広く情報発信し、誘客を図ることを目標としています。 検討委員会では、一身田寺内町まつりは、多くの市民が参加し、市内外からたくさんの人々が訪れているようですが、まだまだPRが弱く、狭い道路や駐車場が少ない等の弊害もあり、そのような中でどのように誘客していくのが課題であると考えられます。更なる誘客に向け、情報発信の手法を見直すとともに、高田本山専修寺と連携を図るなど、新しい方向性を見出していく必要があります。評価としては、C 継続して実施 の評価（案）であります。
岡本会長	ありがとうございます。 全事業通して紹介していただきました。それでは戻りまして、資料 1－①から皆さんのご意見を伺って参りたいと思います。評価はC 継続して実施ということです。なかなか難しいですが、津 e ネットショップ事業との連携が進んでいないということを書いておきました。上に 1、2、3、4とありますが、これは皆さんからお送りいただいた意見でございます。このような意見をいただきまして、これをできるだけ含めるようにして、我々検討委員会が議論した結果がこの下のコメントになってございます。これについていかがでございますか。見ていただいてここはこうした方がいいというのがあればお話しいただきたいですし、これでいいというのであればそれで結構でございます。
今井委員	資料 1－①の 1 のコメントの部分で、よくわからないので教えてほしいのですが、システムが十分に起動していないから軌道にのっていないという意味でしょうか。

岡本会長	どなたかから送っていただいたご意見になりますが、事務局でどのように受け取ってもらったのかということを聞かせていただきたいと思います。
北川地域振興室長	「軌道していない」と書かれておりますが、「機能していない」ということかなと解釈させていただいています。
岡本会長	そうですね、そういうことだと思います。 今井さんそういうことです。うまく機能していないということをおっしゃっているんだと思います。
今井委員	では、機能していないという理由は、先ほどおっしゃっていた発掘できていないということがあると思いますが、実物で紹介しているところがなかなか少ないと思うのですが、センターパレスの3階に一部、県の総合文化センターの麓にあるマックスバリュには三重の地の物コーナーというのが割とたくさん展示されていて、買えるし、それはセンターパレスのような展示品ではなく、購入商品なのでとても見やすいですが、ある他府県の人から無花果の甘露煮について調べてほしいと言われたこともありますし、そこでいろいろ見るといいのかなと。散らばっている。あそこに行けば何があるという会館みたいなものがない。実物を見ないと、私の意見ですが、「津モール」って言われたってどこに店がでしなかなと思ひまして、やはり、ネットを開いてそこへ入らないと見られないということは、一部の人になるのかなと。やはり実物を見ないと、というところが食品の場合はあると思います。
岡本会長	おっしゃっていることはよくわかりますが、それで我々の検討委員会評価（案）がありますが、そのコメントのところをどのように変えたら今井さんのおっしゃることが入ってくるでしょうか。
今井委員	やはり、動きが鈍いというのは、どんどん日に今日も増えた今日も増えたというぐらいに、ネット上では発信力が目に見えるほど強くはないので、日に何件も増えている農産物、特産物、ここでこんなことがあるというのをすぐに取り上げて写真で紹介してくれるような形で、記者が投稿するというのではなしに、正式に変えてしまうというぐらいの量と種類がないと魅力がない。毎日見て楽しめるということじゃないと、買わなくても見たいという魅力がないのをカバーするのはやはり数と種類がないのを

	開拓する。それをここで直接出してもいいのでしょうか。
岡本会長	ちなみに、今井さん検討委員ですが、すんなり意見をここへ組み入れるというのはなかなか難しい発言ですが。森田さん、今のご発言を聞いていただいていたかがですか。
森田委員	私は、つ・ローカルインフォメーションと津eネットショップ事業との連携がスムーズにいったいないと思います。それと、これを運用する市民特派員の質的な向上を行って、スムーズに長く継続的にやれるような市民特派員の技術的質的向上がさらに必要でないかと思います。
岡本会長	そういうことだと、このコメントでだいたい吸収されていますね。橋本さんいかがですか。
橋本委員	地域ブランドの方はよくわからないのですが、この前孫が来たときに、近くに遊びに行きたいなと思ったときに、上野城址に子どもの遊具があったのを思い出しまして、連れて行ったら、奇声をあげて喜んでくれたんですが、来ている人はとても少なく、とても涼しくて気持ちがよかったです。海に見える高台に行ったら本当に昼寝がしたいなと思うぐらい気持ちのいい環境だったので、ぜひそういう情報がタイムリーに、先ほど市長さんもおっしゃったように、向日葵が今ここできれい、紅葉の季節ここへ行ったら今ちょうどいいタイミングよ、というようなことを教えていただければ、出掛けてみたくなるのかなと。やはりスピード感がとても大事ではないかなと思いますし、この狭い地域ならではのタイムリーな情報を教えていただきたいなと思います。
岡本会長	その通りだと思います。例えば地域ブランドについては資料1-②で出てきますのでそこで議論してもらったらよろしいですが、そういったものがネットにずっと入ってくるようにしてほしい、という意味でCという評価、継続してもう少し頑張っていただきましょうか、ということです。澤田さん何かありますか。
澤田委員	インターネットが使えないので、検索してなど言われても、市政だよりだけが頼りでございますので、ちょっとわかりません。
岡本会長	そうですか。須山さんいかがですか。

須山委員	私も同じくインターネットは見られませんが、橋本さんがおっしゃったように、スピードをもって知らせていただけたらと思います。
岡本会長	今井さんの考え方は壮大な構想の中で考えてもらっていますので、集約してみてもっしゃっていただいたことを生きるようにすると、このような書き方でがんばってくださいということになるのではないかと思います。 村田さんいかがですか。
村田委員	前回前々回と休んでおりまして、評価も参加していなかったもので、なかなかこれを見せてもらって今日意見を言うというのは難しいです。
岡本会長	出してもらえる方には出してもらって、4つが意見として出てきたのですが、それに我々検討委員会が意見を重ねてここへまとめるという形をとっています。そのように読んでもらったらいいいと思います。 東さんいかがですか。
東委員	それ以前の問題として事務局にお尋ねしますが、委員 15 名中何人がこの評価を出されているのでしょうか。
松下地域振興 担当参事	4 名の方が紙で提出いただきまして、検討委員会の委員さんにつきましては口頭でお話いただきました。5 名みえますので、紙では 4 名、口頭では 5 名いただいています。
東委員	いろいろな事情があって抜けることも多いと思いますが、検討委員会以前にみなさん地域審議会に参加しているわけですから、ベースの部分できちんとしていないと、検討委員会でもがんばっていただいても、それは一部の意見になってしまいますので、欠席された場合にこういうものを提出するということであれば、きちんと事務局の方から趣旨説明をしていただいて、必ず提出するということにさせていただかないと、本当の意味の評価にならないかなと危惧いたします。
岡本会長	おっしゃるとおりだと思います。おっしゃるとおりですが、この前参加してもらっていて、ご意見いただいた部分も入っているのかもわかりませんが、皆さんから出てこなかったということで。

東委員	それから、評価をするということは、根拠があって評価するわけですから、コメントの部分が大事だと思います。だから、ネットを使っていないから、というのも一つの意見だと思いますし、どれだけの高齢者がこの事業に参加できているかということもありますので、一概には言えませんが、もう少しそこら辺のことをきちんと押さえていただきたいなと思いました。
村田委員	休んだ人に家に送るとかして、何とか返すようにしたらどうか。そうしたら我々も返さないといけないし。全然来ていないので出す機会もないし。そして、今日急に見てもなかなか意見を言いにくいわけです。
岡本会長	我々としては審議会を開いてそこで議論をしまして、これを出してもらいまして、こういうことですので、この下へ評価をしてコメントを書いていただくということで、皆さんご意見があったらお寄せくださいとまず言っておいて、そして8月11日に検討委員会を開いて、もらったのが4つでもう仕方がないので、みんなにもう一回といってもなかなか出てこないと思うんです。なので、検討委員会がなんとかまとめたということでございます。これは、昨年からも続いておりまして、同じようなことで出てきておりますので、ずっと議論を重ねてきています。初めてやってもらっていることではありません。そのように考えていただかないと、ここでまた始めると収拾がつかなくなりますので、重ねてきていることを前提として、これが良いか悪いかというようなことを、悪いところがあればこのようにしてはというようなことを議論していただきたいなと思います。
東委員	事業そのものが、ネット事業に関しては審議会委員全体がよくわからない部分もありますよね。私自身もそういうのが一部あって、だから評価するにも評価できないということがあるのではないかなという感じがいたしました。
岡本会長	それでは、市長1－①については、難しいところがあるということなので、少し置いておいて、②、③、④と進みやすいところから、片付くところからやっていきたいと思います。 次は資料1－②をご覧くださいと思います。これについても4人が意見を寄せてくださり、これを我々検討委員会が我々自身の意見をつけて、このような形で検討委員会評価（案）というのが出てきているということです。そのような認識の下でお読みいただきたいと思います。地域ブ

	ランドとして推進していくには、難しいという意見を出してもらっていました。安定した販売量を得ようとするのには、非常に努力が必要ですよというように、コメントに書いてあるような形にまとまりましたということでございます。
東委員	真ん中の方にある、「市民の目も反映される」というような抽象的な書き方をしていただいておりますが、先程今井さんがおっしゃったように、スーパーの片隅に生産者コーナーがあるので、地場産の物の売れ行きをチェックするなど、そういうこともという形でもっと具体的に提案しないと、どうでしょうか。前も同じようなことが出ていたと思いますが。
岡本会長	具体的なことをここに書いていくわけにいきませんので、このようになっていますが、そのあたりは実際に事務局を通じてお話をさせていただくことになると思います。 この②についてはいかがでしょうか。だいたいこんな感じで出していくしか仕方がないと思いますが。
今井委員	委員会評価案にありますように、デザインというのを直接見てすごく感じていまして、なぜいい商品なのに同じような袋にしか詰めないのか、中身が良ければというのではなしに、見た目から、やっぱり手に取りたいというものがないと、どうしてそらの袋に全部同じように入れてあるのかが、お茶とか花茶とか食べ物にラベルやいろんなものに気を使わないのか、せめて生産者の写真シールだけでも貼っておけばいいと思います。デザイン力、販売促進力が弱いということは、そんなに売りたい、ということは爆発的に売れたら困るという何かがあるのかなと考えてしまいます。やはりブームになったらなったで地域の人が連携して生産力を上げていけばいいわけですし、何か中途半端な、出ているようで引っ込めているような変な感じがしてしょうがないです。
岡本会長	そういうことが必要でしたら工夫してやってもらわないといけませんよというように形で評価をしておいて、具体的にどんなことですかと聞いたら事務局が把握していますので、それを説明するということになりますので、まず我々のコメントはこんなところでいいのではないかなと思いますが、村田さんいかがでしょうか。
村田委員	そうですね。

村田委員	津モールを実際に開いてみますと、5品目しかなくて本当に寂しいです。今井さんもおっしゃっていますが、生産者の生産量が十分に確保できないために、この程度の段階から始まっているのではないかなと、私はインターネットを見ながらそう考えています。今後、生産者が増えてきたら、ラベルだとか色々考えてどんどん増やしていくような形で2段階3段階と進めていくべきではないかと思います。
岡本会長	まず、何が載りそうかというのを捉まえてもらわないといけませんね。たとえば松阪やそこらへ行くとブランドがあると。美杉に行ってもあるわけです。美杉のものはここへ入れていくと、ところが津地区そのものはどんなものを開発して売り込んでいくのかということと非常に弱いかなと。白塚の魚はどうかなどいろいろ議論はしていましたが、それも今はもうあまり獲れないということですし、それを何かみつけないといけないということで、このような評価も低くCとなっていますが、これから頑張ってもらいましょうということです。 それではこれについては、このようにご承認いただくとしておきたいと思います。 では資料1-③をご覧ください。家庭教育に関する講座は云々と、もうちょっと頑張って大学の連携を密にすると、というような書き方で書いてございます。公民館講座と大学、大学と言っても三重短期大学だけではなく三重大学も含めて考えてもらったらいいと思いますが、そういうところとの連携というもので、専門性と書いてもらっていますが、そんな難しく考えてもらわなくていいと思います、公民館講座で終わらずにその上へ、もう少し頑張ろうかという人のためにそういうような講座を設けていくということでどうかというのがこれでございます。 これはいかがでしょうか。橋本さんいかがですか。
橋本委員	コメントとしてはこれでいいと思います。どのような形で皆さんに周知されているのかわかりませんが、もっと周知されるようにしたらどうかと思います。
岡本会長	結構宣伝はできていると思いますが、もう少し、森田さんもおっしゃっていたように、講座を受けた人がその後が続いていかないといけない。
森田委員	市民の代表としてボランティアの継続のようなものを、レベルを上げて

	津市のお手伝いができるようなことをやっていくという形に将来もっていかなければいけないと思います。
岡本会長	昨年の評価のときから森田さんはそのように言っておられますね。
森田委員	今日は市長さんがみえるのでちょっと物を申しますが、我々近藤市長のときに、津ときめきゼミナールというので2年間勉強させていただいて、それを卒業した人が市のボランティアに登録してその後いろいろ活動させるということで、登録まではしましたがその後トンボ切れになったというような状況です。そして、松田さんのときからはげんき大学をやっておりますが、げんき大学を卒業した人をうまく使っていただくかたちにしないと、せっかくやられても中途半端になるのではないかなと思います。
岡本会長	市長さんがおられるのでということで、発言いただいておりますが。
東委員	よろしいでしょうか。先ほど事業の積み重ねとおっしゃいましたが、これは一番それがよく表れている事業だと思ひまして、昨年度はそうではなかったのに、今年は幼児グループのお母さんたちが随分活発化されて活動していることは一つ進展だと思います。ただ、他の講座についてはどのような方が受講しているのか年代もわからない、意図も明確でないというふうなことで、全然進歩がないわけです。なのでその辺のことを、人材育成を目標にするならば、しっかりとしたプログラムをたてて、それに沿っての講座にしてほしいということは昨年度お願いしたと思うのですが、そのことが全くリサーチもされていない状況だったので、大変がっかりいたしました。うまくいった面とそうでない面があると。今年は担当の方が換わられたということもありましたが、たとえ担当の方が換わられても継続事業についてはやはり引継いでいただいて、前年度よりもう少し前に進めるという形でやっていただきたかったなと思います。
岡本会長	それはその通りだと思います。人が換わったからといって変わるということではありません。多少考え方が変わるということはあるとは思いますが。したがって、こういう評価をしながら続けていくということになると思います。
東委員	専門講座についてはやはりプログラムをしっかり立てていただくことと。

岡本会長	結構立てていただいているとは思いますがね。
東委員	うーん、講座を見て、それを受けたら人材育成になるのかというのを首を傾げます。
村田委員	取組状況に人数も出ていますが、実際にこの後専門的にやってみえるとか、活動してみえる方は何人みえるのかは把握していますか。
松下地域振興担当	家庭教育の講座については、前回担当者から話もありましたが、アンケートをとっておりますが、他の部分についてはアンケートは行っていないという返答だったと思います。家庭教育についてはきちんとした目標というか次のところがありますが、他の部分についてはどうしても中身が公民館講座と差異がないなど、あまり専門性がないように見えたので、当然これは、平成 24 年度の予算協議の中でも評価について議論をして、予算の計画に対し、私どもも報告なり要望していきたいと思います。
岡本会長	森田さんの発言は市長にとのことでしたが。
前葉市長	生涯学習の話というのは、学ぶ方は非常にご熱心にいろいろなことを考えておられるんですが、結局、市役所としてというのはなかなか、例えばネーミングでいうと「ときめきゼミナール」とか「げんき大学」というのはときめき＝近藤康夫、げんき＝松田直久、のようになんとかイメージできるもので満足してはだめで、おっしゃるように人材の情報をきちんと整理して、そしてデータベースなのか、人材バンクなのか、そのようにすることと、あとは情報発信だろうと思いますが、私も市長になってホームページを見て、例えばお城のことや藤堂高虎のこととかいろんな形で情報はあっても、どうやってその情報にたどり着けばいいのか非常にわかりにくくなっているというので、あそこにありますわと言うので、じゃあ私のパソコンで出してみても各部長にパソコンを触らせたなら、ちょっと出てこないですなとなりますので、そんなだったら市民の方だって出てくるわけがないじゃないという話なので、少しずつその辺は改善していますので、例えばあのつアカデミーを評価していただいたその結果を具体的にどのようにその情報を整理するか、発信をするかということ具体的に繋げていきたいと思います。地域審議会でもこのようなご意見が出ていました

岡本会長	よと、私が今日直接お聞きいたしましたことは、きちんと予算の議論や来年度以降の事業展開の中でしっかりやっていきたいと。 ありがとうございます。ということですね。 取組状況は今年取組こんなことやりました、翌年度への課題がここにありますが等書いてもらってありますが、ここにもうちょっとこうしていただきたいというようなことを加えて言う必要があると思います。そのような意見については、例えばここに検討委員会評価（案）とありますが、この案にもう少しきつく言っておけるとか、そのような思惟をいただくと、それを入れることができると思います。 市民に興味を持ってもらいたいと、これはPRがきちんとできていないといけなそうですね。そういうところに問題があると思います。 今井さんこのあたりはいかがですか。
今井委員	ここに入るぐらいだと、終了証を必ず発行し、本人が意識的に市の役に立つということを自覚させるような小さなピンバッジを作って、市のサポーターとか、応援団的な、やはり津市は三重県の知の発信地ですから、アカデミーという名前のつくものにそんな恥ずかしいことできないと思います。昨年からも実践されている大学との連携がこの案の文章の中で具体的にもっともっとさらに進めるべきというのが、どのくらいの進捗状況を期待できるのかが私は不安です。
岡本会長	ここに書くことはできませんので、事務局からこのような意見が出ましたということをきちんと伝えてもらって、来年の取組状況にそれが表れるようにしていただきたいと思います。 そうしたら、③につきましてもポイントはこういうことで、評価とコメントを出していくというようにしたいと思います。 次に資料1－④についてはいかがでしょうか。寺内町についてはいろいろと検討委員会でも議論はしましたが、なかなか難しい面があるということですね。このことについては村田さんが詳しいかと思いますが。
村田委員	こういうイベントというのは、私どもも経験していつも感じますが、やはり今年やったものを来年もやるというのは、大事なことは、主になる目標としていることはそれでいいのですが、何か新しいことを一つずつ加えるということを考えてみてはどうかと思います。というのは、毎年同じことだと飽きにくるわけです。だから、その年その年の目玉とかそういう

	うものをひとつ考えたかどうかと思います。呼びかけにも繋がるし。そうでないと、同じことをやっていると飽きてきます、イベントというのは。私も経験していて、昔考えたのはブラジルのサンバで、これは結構良かったです。それも2年くらい続くとまた何かしないといけないと、そこでよさこいを考えました。そうしたら、よさこいはブームになりました。最近の津まつりは、よさこいの祭りみたいになっていますが、まあそれはそれでいいとは思いますが、何かひとつ新しい目玉を作って、それをポスターへどんと、今年はこんなのやりますよというのを出せばだいぶ違うのではという気がします。予算の関係もあって難しい面もあると思いますが。
岡本会長	一身田のまちづくりと高田本山専修寺とがうまいこと連携が取れていないような感じがします。それがうまくタイアップされていくといいと思うのですがね。とにかく須山さん駐車場ですかね。
須山委員	駐車場が一番問題。長い道中歩かされてやっと着いたら歌を歌うところではないです。それと、道の幅が狭いですね。どうにもなりませんけどね。
岡本会長	寺内町は一生懸命やってみえますが、ただ短いのでそこだけではなかなか。なので本山がもっと力を入れてくれるとだいぶ違うと思います。なかなかうまくいっていないようですね。
村田委員	これは実行委員会でやっているんですね。市は補助金か何か出してそれで終わりですか。
岡本会長	そういうことですね。そして、そこだけ力を入れていても点だけになってしまいますので、観音さんやそこらへと言いますが、なかなか結び付かないわけです。私は、点を線に結び付ける方策を練らないと、そこだけ力を入れてやっているだけではだめやないかと思います。そうすると、これは後から話をしようと思っていたのですが、点をつなぐにはコミュニティバスがあればと思います。お金を無料にしなくてもいいと思うんです。200円なら200円でぐるっとポイントを巡って説明するというような、そういうつなぎ方にしたら、一本の道をつけてつなげるというのは無理ですからね。大門でも商店街の活性化をということでお金をつぎ込んでも全然生きてこないと思います。なので、何とかして考えないといけないなということです。

橋本委員	今は仕掛けですよ、よさこいもそうですが、どこ行っても上手に仕掛けたことにみんながのって、なんでこんな神社に、なんでこんなお寺に若い人たちが列をなしているのかと思うと、縁結びの神様であったり、本当に御利益があるのかないのかわかりませんが、だから、本山さんは私いつももったいないと思っていて、本山さんには叱られますが、おみくじもなければ何もないので、若い人がわくわくして本山さんへ行ってというのが無いですよ、全然欲がないというか本当に真面目なのか、その辺がすごくもったいないと思います。
岡本会長	きっかけというのは、どこにあるかわからないです。例えば、伊勢自動車道を無料にするということだと、若い人が伊勢神宮へどんどん行くということになります。
橋本委員	若い人がわくわくして行けるような仕掛けを考えては。若い人はたいしたことない所でも行ったりしますよね。だからお偉い人に祈祷でもしてもらって、嘘八百もいけません、なんかこうみんながここへ行ったら縁結びとか、いろんな仕掛けがあったらと思います。
須山委員	私は観音さんを何とかしてほしいです。三大観音で有名なのに。
今井委員	観音さんだけですか、結城神社も私津に来て初めてあのようなすごい神社を見ました。
岡本会長	そうです、すごいですよ。梅なんか。だからそういうところを結び付けると。
今井委員	じゃあ祭りバスということで、寺内町特別バスをその時だけ走らせればいいんですよ。
須山委員	寺内町やっているときは梅咲いていませんね。
岡本会長	だからポイントを季節季節で押えて、そこを回るようにつくればいいわけ。そのように広げていくことが重要だと思っているんですが。 コメントはそんなにたくさん書けないので、これについては、今回はこのように書いておくということで承認いただきたいと思いますが、いかが

東委員	ですか。 東さん納得いかないところなどありませんか。
岡本会長	これだけの意見から集約していただいて、仕方がないという感じがが。 この事業に対する評価とコメントは、庁内通じて大体このような書き方をしています。簡単に表現して、ポイントを押さえておいて、これだけはやってほしいということを書くようになっていきます。だからずらっとこれ1枚くらいに書いたら全部書けるのですが、今まで積み上げてこれなかったものがあるはずなので、というようなことで、十分意見は聞いてもらっていますので、記録には残っていますので、というように思いますが、資料1－④はこれでいきたいと思います。 それでは資料1－①が難しかったわけですが、同じように考えていただきますと①もこのようになるのではないかと思います。①の場合は、市民特派員の質的な向上、発信情報の充実を図る、課題克服のためには引き続き行政も支援していくとあり、なぜ行政が入っているかという、これは民間へ主導権は移ってしまいましたが、行政はきちんとバックアップしてくださいということです。 ということで、1－①もいろいろと議論していただきましたので、それが生きてくるような計らいをしたいと思いますからご承認をいただけるとありがたいですが、よろしいでしょうか。 ありがとうございました。それでは評価とコメントにつきましては、事項1でございませけれども、これで終わりたいと思います。 事務局からこれまでの意見を聞いて何か発言してもらうことはありますか。
北川地域振興室長	おっしゃられるように、評価は評価としてこういう形でご承認いただいたということですが、先ほどからご意見いただいていることにつきましては、それぞれの担当部署へはしっかり伝えさせていただきますとともに、次年度の事業に活かしていきたいと考えております。 それと、もう一点付け加えさせていただきますと、ただ今いただきました評価については、あくまで東部エリアということですので、東部エリアの他の地区の地域審議会へも報告をさせていただくことになると思います。また逆に津地区以外の地区の評価につきましても、こちらへいただくことになりますし、それと、東部以外全ての地区の評価が出揃った時点で、

岡本会長	公開をさせていただくことになると思いますので、その点も併せてご了承くださいたいと思います。 エリアにどこの地区が入っているかといいますと、この前いただきました総合計画のダイジェスト版にも書いてございます。それを見ますと、津、久居東部、河芸、香良洲が東部エリアです。そこら辺りが東部エリア一体となってまとまることになると思いますので、津地区については4つ評価をいただきましたが、他にも事業がありますので、それが出てくるということでございます。 それでは事項2に移ります。地域コミュニティにおける課題等についてです。何を要求しているのか松下さん説明していただけますか。
松下地域振興担当参事	地域コミュニティということでございますが、端的に言わせていただきますと、私たちが生活している場所、いわゆる自治会とかあるいは皆さんが活動されている団体といったところで気がついたこと見たことなど、これはということがあればどんどんテーマを出していただきたいと思います。あるいは津地区、津エリアを活性化するために何か提案があれば、見たり聞いたり感じたところで提案していただければという趣旨でございます。
岡本会長	ということで、今日のところは誰かにご発言いただいてそれについて議論するということはやりません。どんどんお考えがあれば出していただくということで、よくいろいろまとめていく手前でブレインストーミングというのがありまして、とにかく出して大括りにしてというようなことで、まとめることはしないでどんどん出してもらいたいと思います。思っておられること、各団体さんから代表として出てきてもらっていると思いますので、こういうことがあってとか、一部のエリアでもよろしいし旧津全体でも結構ですが、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。 どなたから口火をきっていただきましょうか。今井さんどうぞ。
今井委員	市バスをつくってください。市が運営しないと乗り継ぎやアクセスが悪すぎて、営業効果のないところは廃止廃止で、特に津駅から河芸まで、新津市になったのに、白塚町でぶち切れています。通じていないままなので、私のところはなんともなりません。どんどん引っ越ししていつて衰退していつて、だいたい我が子自体が他府県に行ってしまうようではだめです。

岡本会長	そんな感じで、皆さん意見を出してもらったら結構ですので、澤田さん何かありますか。
澤田委員	私のところはエリアが狭くなって申し訳ないのですが、私は養正地区に住んでおりまして、この養正地区には老人会が5つに分かれています。私のところはこの市役所を含んでなんですが、第3老人クラブというところで、とにかくお年寄りが閉じこもらないように、外に出てくるようにということで、コミュニティを図りたいなと思いましたが、悲しいかな集まる場所がありません。中央公民館はエレベーターがありませんし、集まるのに年寄りでは3階まで上がるのは無理です。新聞を拝見しておりますと、今度中央公民館も社会福祉センターもセンターパレスへ入ると、そうすると今婦人会で何かしようとしても、中央公民館なかなか取れないんです。それがセンターパレスにみんな集まってしまったら、また会合する場所が無いですね。私のところの老人会はそういうことで、大変困っておりました。その話を聞きました、老人施設明合乃里会というところがございまして。そこが津新町駅のところにシルバータウン新町というのをやっています、ここは 365 日営業しているんですけど、そんなに困っていたらうちをお使いなさいとおっしゃっていただきまして、毎月第3日曜日を休業にさせていただいて、無料で開放していただきまして、冷暖房つけていただいて、お茶も出していただき、やっております。それで、90 歳くらいのおばあちゃんも、今男の方はほとんどいらっしゃらないんです、老人会と言いつつうちは老女会で、男性が出ていらっしゃらないんですが、そのシルバータウンでの第3日曜日はお年寄りみんな頭に入っていますので、出てくるようになりました。最初は車で送り迎えをしていたんですが、最近はシルバーカーを押しながら来ています。そこに来たら声が出せる、歌も歌えますし、社協にお世話になってゲームをしたりしますし、そして年に2回そこで練習した歌を、それこそ昔の小学校唱歌ですが、地区内の老人大学というのが今まで福祉センターで年4回ありました。その場所です。1ヶ月に1回練習した歌を発表する機会も頂戴いたしましたし、シルバータウンで年に1回お祭りをしています。そのお祭りの場でも私たちが練習したのをみんなで歌います。その時は、私たち老人会は60歳以上死ぬまでの方が対象ですけども、60何歳の方から90何歳の方までが白いブラウスに黒いズボンを履いて、そろいの恰好で舞台にあがります。最初は本当に抵抗がありました。昔の女性は舞台に上がって人前で話をするとなんてございませんでしたから、大変抵抗がございましたけれど、手を

	つないであげるからということで、白いブラウスなかったら貸してあげるからと言って、本当に小さなところ、養正地区の第3老人クラブだけの話ですけど、みんなが楽しく、老い先短こうございますから、短い人生を楽しく行こうということで、パソコンなんかはできません。シルバータウンの中にリハビリの場所があります。そこに少しパソコンに触れる人、私はWordだったらできるんです。文書を作るだけの、他は何もできないのですが、Excelだったら線が引けると言われましたがもう覚える気もありません。80いくつになりますと、教えてあげると言っても、教えていらんと言います。私は家に先生に来ていただいてパソコンを覚えましたがね、わからないから先生教えてくださいと言って来て貰うんですが、先生やっってください教えていりませんからと言わないとならない。そんな状態で、私たちはシルバータウンさんを無料でお借りする。その代わりに入所している人がブレーンリハビリしていらっしゃるのを、パソコンが少し使える人、マウスが使える人、全くパソコンに触ったことのない人は無理ですが、ちょっとでもできる方は入所している人にブレーンリハビリのお手伝いをさせていただこうと、それをお礼のつもりでやらせていただいています。
岡本会長	いいお話を聞かせていただきました。あまりかしこまって審議会をやっているというお話は出てこないですからね。須山さんいかがですか。
須山委員	市役所の駐車場は何とかなりませんか。お金のかかることなのであまり言いたくはありませんが。うちの主人はリージョンをこんなところに建てたらえらいことになるぞと言っていました。絶対駐車場が困るからだめって言っていました。そして死んでいきました。リージョンを建てる場所を、国から、前の少年院があったとろ、総文の近くの、今団地になりましたが、そこを買い占めてきちんと段取りつけてありました。テニスコートとか図書館などみんな入れて。そうすると美術館からずっとそれこそ線になりますでしょ。それをある一部の人々が反対してつぶれてしまって、その後欲しいと思って買いに行ったら売りませんと断られて、それで今こんな状況となり、私は非常に困っています。もう立体駐車場にならないといけないですね。
岡本会長	答えがすぐに出るようなことではなく、非常に大きな問題ですね
須山委員	今日も道から市役所へ入る信号3回やり過ごしました。入れないんで

	す。なので、会議のときなどは1時間くらい早く来ないといけない。そういう感じです。今夏休みなので、図書館へたくさん来てみえますからね。
岡本会長	市バスを走らせてそれを利用してもらえれば解消しますね。
今井委員	そもそも公共交通機関がないと自己責任として押し付けられてしまう。
須山委員	それと津市はマイクロバスがないでしょ。
岡本会長	それでは橋本さんどうぞ。
橋本委員	私は上浜町に住んでいるもので、震災後の避難計画を早く知りたいと思っていますが、要は津波がどの辺まで来てどうなのかというようなことですが、それ以前から私たちの避難場所は北立誠小学校で、家よりも川を渡って低い方に指導されていて、絶対あんな所には逃げないと初めから思っていたのですが、今度の地震が起こってからはどうやったら保育園や小学校の方から子どもたちがこちらへ無事に逃げて来られるのかと思うので、新しい計画、いろいろとしていただいていると思いますので、早くどの程度の津波が来て、どの程度の被害が予測されるのかを知りたいなと思っています。 それから今、避難場所として高層ビルを指定されましたよね、あれいろいろ条件があると聞いていますが、じゃあうちの地域でそういう建物があるかということはありません。あるのは、アパートやマンションです。マンションが避難場所になり得るのかということで、もしもなり得るのであれば、私どものところもマンションがありますが、今は満室にはなっていませんので、高いところを一室空けて、その地域の避難のための備蓄をする、そういうところに備蓄しないと、低いところに備蓄していても全部やられてしまうだろう、今置いてある所は絶対持って逃げられるような場所ではなくて、自分たちが逃げてしまったら浸水してしまって備蓄はだめになってしまうので、アパートの一室の高いところの空いている所を確保してそこに自治会の備蓄品を持ってきたらどうかと思ったりもします。
岡本会長	私の住んでいる所もそうです。高いところから低いところへ最終避難所がそうになっています。おっしゃるとおりです。これもまた、市長さん、あとでお話してください。

東委員	お話を聞いていると、本当に津市民として共通することが一杯だなと思いました。さっき市バスの話を今井さんがおっしゃいましたが、うちは高松山団地というところですが、本当に三重交通のバスは通っていないし、お年寄りの方は買い物難民になっていくなと感じますので、なんとかアクセスだけは市で対応していただきたいなと思います。 それからもう一つ須山さんが駐車場の話をされましたが、公民館の駐車場も本当に狭いですね。生涯学習とか言いながら、そして広域になってから車で行き来することも多くなってきたので、車が入らないんですね。必ずしも無料でなくても受益者負担でもいいと思うので、なんとか用地を確保して欲しいと切実に思います。旧津市以外の会場で、サンヒルズとかいろいろな所へ行くと、本当に建物はきれいですし、駐車場もゆったりしている。旧市内だけは本当に足の問題が大変だなと思います。 それから、事務局の方がおっしゃいましたので、津地区の活性化ということをおっしゃいましたが、市でもどうしたら活性化するのか一生懸命考えていただいていると思うのですが、民間でもまちづくりとかそういうことを考えている団体もあって、あちこちでフォーラムがあったり、シンポジウムをやったりしております。私たちが昨年度金沢の行政の方に来ていただいて、いろんなことを聞かせていただきました。そういった、民間とか市民の活動の中へ、どうぞ行政の方が一市民としてでも行政マンとしてでも入っていただいて、何をしているか、どこに活路があるか、どんなことが参考になるのかということと一緒に考えていただけたらということで、民意を吸い上げたいと言う割にはそういう所へ来ていただく回数が少ないなと思います。ぜひ参加していただいて、一緒になってコラボレーションでやっていかないと、片側の問題ではないなと思います。 言いたいことはたくさんあるのですが、その３点だけお願いしたいと思います。
岡本会長	それでは村田さんどうぞ。
村田委員	私の家は殿村です。殿村で交通事故が頻繁に起こる場所があります。高速道路を抜けるところです。一旦停止を守らないために、この間も女性が出勤途中に大きなバンにぶつけられて３ｍ飛ばされたという事故がありました。今まで１０件以上大きな事故が発生しています。警察へ行っても、信号を建てるまではいかないようで、規約か何かがあって建てられないと言われます。いまはストップの標識が立っているだけなので、道路をカラーの塗装をするなどしてもらえないかなと思います。自治会が警察行つた

	りしていますが、埒があかないのでそういうことができないかなと、ぜひともお願いしたいと思います。
岡本会長	森田さんどうぞ。
森田委員	私は新町連合会をやっております。場所は、南は岩田川、北は安濃川、東は近鉄の東の百五銀行、西は水道局という範囲内です。7月のはじめには國魂さん、7月23日には新町夏祭りということで来ていただきました。今度9月19日は洞津会館での敬老にもご招待しております。その中で、非常に広いですから、スーパーができたりロマンなど、いろいろな設備ができてきているわけです。それで2つだけお願いしたいのですが、まず163号線に國魂さんの近くの牛井屋のところ南から北へぶつかる三叉路のところと昔の八町通りの交差点について、早急をお願いしたいと思います。ものすごく事故が多いです。 2つ目は、安濃川の浚渫です。安濃川の砂を上げて欲しいです。砂を上げないと、雨が降ったら一発で新町地区が浸水すると思います。それだけぜひともお願いしたいと思います。
東委員	すみません、ひとつ質問させていただいてもよろしいですか。市に第2駐車場ってありますよね。そこは土日は原則閉鎖ということで、特定の団体が使いたいときだけお願いすれば貸していただけるとのことですが、土日開放していただくことはできないのでしょうか。そんな大きな団体でなくても、ちょっとした会合なんかでもこちらが一杯のことがあるので。
前葉市長	市役所は閉まっていますよね。
東委員	はい、でもセンターパレスも使いますし、公民館へも歩いていくことがあります。あそこを土日開けておいていただくと、随分市民が助かるのではないかと思いますので。
岡本会長	それもひとつ意見としていただいております。 いろいろとお話をいただくと、問題は山積みで、手のつけられるところから手をつけてということになるのでしょうか。 ここで一度区切って、市長さんにお答えしていただきましょう。

前葉市長	かなり個別に、いろいろな部局にまたがる話もありますので、各担当には伝えさせていただきます。共通のテーマでいくつか出ていました中で、整理してお答えできる部分をお答えしますと、旧津で一番話題になるのが防災のことですが、橋本さんが言われた北立誠の話は、選挙中のときから言われていたので、すぐに調べたらこういうことでした。避難所というのはどこに行かなければいけないということはないのだそうです。つまり、上浜町の方は別に北立誠小学校に行かなくてもアスト津でもいい。どこでもいいです。そのことを聞いたから変えたのではなくて、うちの地域防災計画には避難所がずらっと書いてあって、どこへ行ってもらっても結構ですと書いてありますので、そうか、では上浜町の方は別に江戸橋を渡って北立誠に行かなくてもいいということがわかりましたので、6月1日の市政だよりに避難所の一覧を載せたんですが、その時に、避難所は特定の住居の方が特定の避難所に行っていたかなくてもいいんですよ、どこでもご利用くださいと書きました。書いたということを、江戸橋の架け替えか何かの会議が北立誠小学校であったので、そのことを言いまして、自治会長さんが集まってみえたので伝えました。なので、自治会へ伝わっていくと思います。ただ、問題は、敬和小学校と敬和公民館でも同じ話がありましたが、別の場所へ避難すると、自治会長さんが自分の自治会の人が避難することになっている場所にいないと掌握できないという問題があると言われますが、考えてみたら、たまたま今ここで何か起こったりしたら、わざわざ地元の避難所へ行かれませんか。みんな同じことではないかということで、私は敬和小、公民館の地域の人たちには、たまたま観音さんでお参りしているときに何かあったら、敬和公民館へは走りませんよね。養正小学校へ行きますよねということで、それはしょうがないと違いますかと。ただ、本当に避難所という事態になったときには避難所でどういう方が来てみえるのかきちんと把握をして、数日経ったら、本当は数時間でやりたいですが、きちんと名簿の突合ができますから、それでなんとかなるのではないのでしょうかと言っているのですが、これは、例えば上浜町はどうするのかというと、今から上浜町で、じゃあ本当に江戸橋が危ないというときは地域ごと北立誠へ行くのはやめようとか、県文へ行こうとか、決めてもらわないとしょうがないという状況になっています。 それから、津波避難ビルとかマンションの話は、橋本さんおっしゃるとおり、どういうことが起こったときにどうするのかという行動計画が、どうもはっきりしていないということがわかってきました。どういうことかという、例えば、岩田川の河口は 2.87m の津波が、東海・東南海・南海が連動して起こる今言われている一番規模の大きな地震、マグニチュー
------	--

	ド 8.7 の発災後、145 分後に来ると言われています。145 分時間があるんです。なので、145 分の間に逃げる先というのは基本的には避難所です。マンションではないです。津波避難ビルを指定しましたが、あれは、逃げ遅れた場合にとにかくそこへ駆け込んでくださいという場所です。ですから、橋本さんが言われるように、じゃあ上浜町の住民がどこかのマンションの 11 階で籠城するかどうかというと、やはり籠城先は避難所です。だから一時逃げ込み先として指定をしているというようなことが、きちんと説明もできていないし、市役所も悪い、私も悪い、説明できていないし、それをきちんとわかるように書かないといけないですね。ということで、地域防災計画の津波対策編を作りますと 6 月の議会で言ったのは、これは早く言った方がいいと、他のところはまだ気が付いてないと思って、市長同士の競争のように言ってしまいましたが、言ってよかったと思います。なぜならば、そういうことをきちんと書いてみようと、しかも浸水するとよく言われますよね、旧津市の低いところは浸水しますと。これは昭和 49 年の志登茂川の記憶とかがあるので、浸水というのは川が溢れてくる、あるいは海から堤防を乗り越えてくるのが浸水と思っておられるようですが、実は三重県の被害想定での浸水というのは、先に堤防が壊れているという前提です。地震が起こって堤防が壊れてひびが入って、そこから水が入ってくるという前提です。今、堤防を造り替えていますよね、鷺崎のところは今もう高洲の沖合のところをやっているとして、安濃川の河口まで完全にできます。あの堤防はちょっとやそつとのことでは壊れないです。なので、そのあたりのこともきちんと、今の被害想定がこういうものですか、こういうことに基づいて、市民の方にとっていただく行動はこうですということを、もっときちんと書かないと、いろんな断片的な情報を基に不安になっていただくのは良くないということを考えていますので、そのように防災で整理します。秋ぐらいまでにはきちんと整理できるようにします。 2 点目に、駐車場の問題ですが、確かにそのとおりで、東さんがおっしゃったように、中央公民館を使っておられる方が市役所の駐車場をかなり利用されているということがあります。それから、須山さんがおっしゃったように、リージョンで何かあると一杯になるという問題があるので、そのあたりをよく整理して、今の市役所の駐車場のお城側を立体化しようという話は前からあるので、できれば早くやりたいなと思っています。もう一度、需給の関係を調べてみます。ただ、中央公民館自体の駐車場はあつてないようなものなので、公民館自体はここから歩いていただけるよりも、やはり車で来られる方は来たらぱっと入れる公民館じゃないと、駐車
--	---

	場が付随していないとだめということで、センターパレスに持っていきたいというアイデアを出しておりますが、これは澤田さんから、少し遠くなるというお叱りも受けましたが、これは基本的には中央公民館ですから、昔は学校区にひとつ公民館をつくるようになっていましたが、今はその規定は法律で改正されていますので、本当は申し訳ないですが、養正地区に設置しなければならないことはありません。ただ、センターパレスは養正地区ですので、養正地区のやや東の端ですけど、ご勘弁いただいて、しかも中央公民館ですから、少し遠くから来られた方が車で来られて駐車場に止められる、駐車場もフェニックス駐車場とだいたて駐車場と大門駐車場の3つが近いところにありますので使っていただいて、公民館の講座をお使いになる方は無料で止めていただく、駐車券を出すということで整理をしています。第2駐車場は、昔の津署の跡地で、実はそこに中央公民館と社会福祉センターを建てようとしていました。ところが文化財保護審議会がお堀の遺構があるからだめだと。これは難しい問題で、確かに文化財保護審議会に言われても、それは機能優先だとしてできないことはないですが、行政が先導きってお堀の遺構を壊すということはいけないうろろとということで、当面建てられません。あそこに遺構があるということは、今の社会福祉センターの建っているところは完全に遺構ですよ。元々お城ですから。昔は建てられたわけです。
須山委員	あそこは全部堀でした。通りのこっちに附属があつて、全部堀でその向こうに養正があつてと、全部堀でした。
前葉市長	全国の都市どこでも、お城の中に物を建てるということは今までやってきましたが、今は文化財保護の考え方がだんだん強くなってきて、できなくなっている。ということで、私も津署跡地で計画されている所はなんとかそのままつくりたかったのですが、言われたのが3月なんですね、松田さんが辞めてから私になる前のことだったのですが、ちょっと難しいなということで、苦肉の策でセンターパレスを考えました。ただ、センターパレスにする場合は、大門に少しは賑わいが、中央公民館に来られたお客さんが、ぶらっと大門通りを歩いて車に乗って帰っていただく、あるいは公共交通を使って帰っていただくというようなことをしていただけるのではないかなという期待も込めて、議会へ8月10日に出しました。これからこの議論が出てきますので、私どももきちんと検討状況をお伝えしながら、また皆様のご意見をいただきながらしっかりやっていきたいと思ひます。

	それに関連して、バスですが、今井さんおっしゃったように私も昔に三重会館から鈴鹿市駅前行き、その後は千里が丘団地行きとか太陽の街行きとかあった時代をよく覚えていますので、白塚で右へ曲がって行って、23号線まっすぐいかないと、実はあちこちでそういう問題が起こっています。それで、市バスを今からやりますというのは、経営自体が成り立ちませんので、そうすると、コミュニティバスとか小さなバスをなるべくオンデマンドに近い形で走らせるということが必要です。実は、旧町村のところでは全部コミュニティバスという形をやっておりましたので、これを津市になって一応基本的には引継いで、三重交通に委託をして、もちろん赤字ですけど、津市がやっていますが、これは旧町村単位で回っているんです。津もぐるっとつーバスをやっていますね。あれでいいのかどうか、あまり乗ってもらってない気もするので、そのあたりも検証して、そして旧町村単位で回っているところも、うまいこと、例えば一志病院に行くのならより一志病院に行けるように、エリアを超えてうまいこと行けるようにしたりとか、そういうことをきちんとやりまして、コミュニティバスを再編するとともに、これからの時代は特に高齢者の方を中心にして、福祉タクシーみたいなものをもう少し使いやすくするとか、そういうことを考えていかないといけないのかなと、そうしないと買い物弱者の方は本当にお困りやと思います。ただ、よくよく聞いてみると、例えば一志のとことめの里では、波瀬から毎週木曜日にバスを出してずっと来るんですね、とことめには波瀬の人は必ず木曜日に来ます。そして帰りに大井川合で降ろしてくれとかで降ろしてあげるのだそうです。そこで買い物などの用事を済ませて、帰りの大井から波瀬までは若い人に迎えに来てもらうとか、そういうことをうまいことしてみえるようです。地域コミュニティの足の問題は、柔軟に考えていかないといけないようになってきたと思いますので、昔のことを知っている私たちからすれば、バスのネットワークを三重交通さんよくここまで減らしましたねという感じは私もしますけれど、確かに乗っていないのではないかなという気もします。そこは三重交通さんの経営というよりも、行政がどこまで地域の足を確保するかというところまでできていますので、そこはもう少し考えさせて下さい。 それから、森田さんが言われた、163号と八町通りの交差点は、私も自分の選挙の時に通りかかったらその前に事故を起こしてしまいましたので、よくわかります。村田さんの言われた殿村のところも、この間から聞いていますので。たぶん道路のカラー舗装というのは、国道だと交通安全対策として国がやりますが、市で同じような事業ができないのか確認をしてみる必要があるのではないかと思います。
--	--

	澤田さんのお話、明合乃里さんが開けてくださっているというのは非常にいいお話なので、やはり福祉施設もそうやって地域の皆さんに貢献していただく、そういうことで若干の営業マインドもあろうかとは思いますが、いいお話なので参考になりました。 これではほぼ一通りお答えさせていただいた気がいたしますが、漏れている所とか、趣旨が違うというところがあったらどうぞおっしゃってください。
森田委員	安濃川の浚渫についてお願いします。
前葉市長	川の浚渫は県なんです。県のあちこちにそういうのがあります。県に言ってみます。
岡本会長	森田さん私も賛成です。安濃川と長谷山をうまく結んで、きれいな桜通りをつくったり、紅葉と桜で長谷山を時季ごとに楽しむというようにされるのがいいかと思っています。そのためにもまずは、おっしゃるように海に近い方を浚渫して、整備しないといけません。 ということで、いろいろお答えいただきました。たくさん出してもらおうと言っていましたが、答えていただけたので、また聞いてもらえることもできると思います。 私は防災のことですが、これはおっしゃる通り手がけてもらっているのですが、私の方も例えば 800 戸ほどある団地から、最終的な避難所は片田小学校です。片田小学校は下の方の旧の 8 町村でうまってしまうと思います。片田団地だけ独立しようと思っても、きちんとそれを最終にしてもらわないと情報が来ないし、支援物資が届かない。そのような整理をきっちりと。まずは地区でやっていかなければいけないのかなとは思っていますが。なんでそんな低いところへいかないといけないのかというのもおかしい話ですよ。一度上の方へ上がっておいて、そこへ行けという集中避難所は指定してあるわけです。だから、まずは近くに公園がありますから、そこへ出よということはおっしゃっていますが、それからそこへ行くと。行って今度は逆に片田団地を下りてきてということになっていますので、先ほどおっしゃったようにとにかく自分でできることを考えていかなければいけないと思います。私のところは自主防災がかなり進んでおりまして、防災活動をやったりいろいろやっていますし、発電機も一家にひとつは買って置いてあります。なかなか置くところも難しくて、今回 10 万円市から補助してもらって 45 万円ほどのヨドコウをひとつ据えて、公

	園に据えるのも許可をもらわないといけないし、まあなんとかやって、少しずつ整えています。でもこれはぼちぼちではいけない、早いところやらなければと思っています。市で考えていただくことと、それぞれの地域で考えることそれぞれうまく並行して。まずはその地区できちんと整理できるように、そのために忙しいですが、自治会長引き受けて3年目になります。
前葉市長	自治会長さんやそれぞれの団体などお世話いただいている方々のおかげで市政はうまくいっていますから、ありがたいと思っています。
岡本会長	祭りにも顔を出していただきまして。あれが結構励みになります。事務局の方、その他で言うておくことはございますか。
北川地域振興室長	特にございません。
岡本会長	次回の会議については、また事務局の方で調整をしてもらって決めていくことにしましょうか。 それでは、先ほどの評価については検討委員会の案で答えておいていただくと、東部エリアでまとまってから出されることになると思います。
松下地域振興担当参事	9月以降になると思いますが、また、総合計画審議会が始まりますので、そうするとまたいろいろ細かいことが出てくると思いますので、その時になったらご報告させていただきます。
岡本会長	それから、今日出していただいたご意見はきちんと整理をしてもらって、総合計画の中に組み込めるようなものがあれば、向こうから要請があればこれで答えようということが出来ますし、こちらから要望することもできると思いますので、副会長が今度出てもらいますので、そのようにして総合計画と結び付けていきたいと思っています。 それでは本日はありがとうございました。市長さんどうもありがとうございました。